

2032

お正月キット

Kit for the new year ceremony

AD 38 三浦 光
指導教員 杉島 一男

1.研究目的

お正月は今でも引き継がれる年間行事の一つ。私は毎年初詣に行ったりおせちを食べたりする。しかしある友人は中華やイタリアンのおせちを買ってTVを見て過ごすのだという。「現代人にとってお正月とは」という疑問、寂しさを感じるのは私だけなのだろうか。

2.調査と分析

お正月については祖母に尋ねたり文献で調べ、言葉・飾り・食・遊び等、様々なしきたりを知ることが出来た。現代では行事として伝わっているだけで、その元々の内容について知る人は少ない。時代は変われど年間行事として传承されている以上、この興味深い内容に日本人なら必ずを興味を示すだろう。

ユーザー調査では20～30代の若いお母様方に「お正月に関するアンケート」を採った。中でもおせち料理に関する質問では作っている人48%、実家で作ってもらう人30%、買う人22%だった。「実家で作ってもらう・買う人」という新たなユーザーの誕生から、将来的に全員が買う側に回ると推測出来る。

「買う人」のおせちが売られているデパ地下に市場調査に行った。特設のおせちコーナーでは1セット大体5～10万という高額にも関わらず、たくさん家族で賑わっていた。お重箱は簡易な木製のものがほとんどでアクリル製のものもあり、ここ十年でおせち料理は大きく様変わりしていたことが分かった。それ自体は悪いと思わないが儀式としての重み・良さが消えてしまうと懸念した。そうなったとしても伝統の良さ慣習は伝えていきたい。

3.コンセプトの立案

お正月のしきたりを様々な仕掛けで楽しく学ぶ

- 1) 触れて体感できる、付録の詰め合わせ。
- 2) 若い家族に向けた分かり易いデザイン。

4.デザイン展開

1 本体のグッズ

- 1.もち袋: 本来お餅を配ったという慣習から、餅型のポチ袋に展開。幼児が楽しめる入れ子式の袋。
- 2.初詣ハンドブック: 初詣のしきたりを体感してもらう為、ポケットサイズで作法を説明。
- 3.伝統色かるた: お正月用品の多くは日本の伝統色を使用している。いろは歌と伝統色を学び、作る、片付けさせることで子供の発育を促す。豆知識を記載し、大人も楽しめる。
- 4.お正月のCD: 耳で聞いた方が覚え易い干支等、古い曲から最新の曲までお正月の歌を集めた。
- 5.しきたりブック: 「いわれ・かざり・しょく・あそび」のし

きたりを紹介。文章とイラストで分かり易く編集し、付録を付けてマガジン感覚で読めるものにした。

2お重箱

本物の高級感を出す為、紙を巻くという伝統的な手法を取り入れ、角Rを出した。白は若い家族に向けた奇抜なお重箱である。

3おせちセット

12月中に購入する「お正月キット」には「おせち券」が入っており、元日におせち料理が送られてくるシステム。各品にはいわれが記載されており、母親が子や夫に教えてあげられる。

セット内には箸袋が入っている。名を書き、専用の箸袋でおせちを頂くというしきたりから父母子で異なるデザインにした。正月箸袋が着物によく似ていることから、着付けを覚られる絵柄にした。

5.完成図



6.結論

幼稚園で検証した。特にかるたは「知ってるようで知らなかった」という意見を頂き、易し過ぎる内容になかったことが受け入れられた。読み物は若い世代はあまり興味を示さず、初詣は想像以上に廃れてきているのでもう少し若い視点に立って考えていく必要があると感じた。おせちは食べる方には喜ばれたが、全く食べない人にとって訴求値が低く、さらに魅力的なシステムするべきだと感じた。自分にとって伝統とモダンの融合を考える有意義なテーマであったと思う。

7.参考文献

浅田峰子,1990,『伝統のおせち』グラフ社
福田邦夫,2005,『すぐわかる日本の伝統色』東京美術